

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070300688
法人名	株式会社 ウキシロケアセンター
事業所名	グループホーム いこいの里 中原
所在地	福岡県北九州市戸畑区中原西2丁目7-8
自己評価作成日	平成25年10月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成25年11月30日	評価結果確定日	平成26年2月25日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭の延長線上をテーマに、入居者様の人格を尊重し、笑顔でよりそえるあたたかいケアの提供を目標としている。入居者様一人ひとりの状態に合った支援や、生活する上で自信をつけて頂けるよう食事の盛り付けや食器洗いのお手伝いをして頂いている。また、大人数でのレクリエーションや少人数でのレクリエーション等、状況に合わせてレクリエーションを行っており、2ユニットの特性を活かしている。地域密着型施設として地域清掃のボランティア活動を実施しており、適度な運動と、近所の方々となふれあえる時間を設け、入居者様が気分転換できるような笑顔の多いケアに努めている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅街の中にある事業所の周囲には、協力医療機関や公園が近隣に位置し、徒歩圏内の最寄り駅から大学までの通り沿いには、スーパーや商店、飲食店が並び、昔ながらの利便性の高い環境の中にある。今年度は、入居者の方々と共に公園の清掃活動が開始され、地域の理解や交流拡大、心身の賦活に向けた新たな取り組みも始まっている。また、行政との連携を図り、地域の困難事例についても柔軟な対応を行う等、地域のニーズにも応えている。市内外にて福祉事業を展開する法人が一体となり、研修体制や事例の共有や、年に1回、家族との温泉旅行を企画し、参加を募る等、サービスの向上に結び付けるべく、積極的に取り組んでいるところである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を職員が確認しやすい位置に掲げている。また、朝礼時に1日の始まりとして事業所理念の復唱をおこない、意識して入居者様のケアにあたれるよう取り組んでいる。	開設時に代表者が作成した理念を具現化し、「正直で美しく働こう」というスローガンに向かい、職場全体で共有して日々の支援につなげている。日々の確認や事業所内への掲示を通して、実践の場面で意識できるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議や区役所等から情報を得、参加できる地域交流には参加させて頂いている。10月からはボランティア活動として、入居者の皆様と近くの公園清掃を始め、地域の方々とお話をする機会も増えてきている。	市民センター行事や近隣の保育園児とのふれあい等、地域との交流が行われている。今年度は、入居者と共に近隣の公園清掃を定期的に行い、地域の理解を育みながら、交流の機会の拡大につなげている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解、支援等地域に向けた取り組みは行えていない。 運営推進会議等、今後の議題として地域の方々に向けて活かしていける活動を検討していく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に(2ヶ月に1回)会議を開催し、参加者の皆様から貴重な意見、情報を頂いている。頂いた情報から、入居者様が楽しんで頂けるようなイベントに参加し、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は、家族、民生委員、地域住民、地域包括支援センター職員の出席を得て、定期開催されている。運営状況の報告や地域情報の収集機会としても活用し、意見交換やアドバイスを頂きながら、サービス向上に活かせるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃より市町村と連絡をとり、相談、助言を頂く等連携をとっている。 より良いサービスが提供できるよう今後も連携を図っていく。	地域での認知度もあり、対応困難事例の相談や依頼にも積極的に対応している。そのため、行政機関との連携もスムーズである。ケースワーカーの訪問も多く、利用者の情報共有ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症に伴う精神・行動障害のある入居者様もいらっしゃるが、職員が側に付き添い対応しているため、身体拘束は行っていない。全職員身体拘束についての理解もしている。玄関の施錠については2重の扉となっているため、外に直接通じる扉のみ防犯のため施錠している。	3階建て、2ユニットとなる住環境の中で、個別の状況にあわせた生活環境作りに配慮している。センサーは利用せず、日中の活動性の向上等による夜間の良眠を促し、また、眠れない場合にも無理な睡眠は誘導せず、その都度の対応を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内の研修、学習会で虐待等学びの場があり、虐待のないよう努めている。 夜勤等1人になる場面もあるが、入居者様の状態を毎日観察しているため、今後も注意を怠らせず防止に努めていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用されている入居者様もいらっしや、関係者と利用者様の状態等話し合い、情報交換等行っている。職員全員が権利擁護について理解しているわけではないので、今後学習会を行い理解に努めていく。	現在、日常生活自立支援事業を活用している方もおり、関係機関との連携による支援の過程において、学ぶ場面も多い。職員への指導については、段階に応じ実施し、理解を深めるよう努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に契約書、重要事項説明書の説明を行い、同意を得た上で署名、捺印を頂いている。 今後も十分な説明を行い、入居者様、ご家族様が安心してご入居して頂けるよう努めていく。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様に楽しく生活して頂けるよう趣味活動の模索や、ご家族様への情報収集等行っている。頂いた貴重なご意見を入居者様の生活に活かせるよう職員一同心がけている。	単身の方や家族との連携が難しい状況の方も多く、リアルタイムの情報交換や意見の聴取は十分できない部分もあるが、法人としての通信を送付する等、情報共有に努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所内のミーティングにて職員の意見を聴き、職員全員で議題の検討を行っている。 事業所内では解決できない問題等は、管理者ミーティングで検討し、職員の意見が反映されるよう会社全体が一体となり取り組んでいる。	月に2回、事業所内でミーティングを行い、職員との情報共有や意見の収集に努めている。法人本部からも、役員や担当者が各事業所を訪問し、業務点検や課題を認識するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の能力を把握し、業務に活かせるよう指示、助言を行っている。業務の達成や努力を評価することで、向上心を持ち業務に取り組んでいる。給料水準、職場環境についても、管理者ミーティング等で前向きな検討を行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	法人主体で職員採用行っており、個々の能力ややる気によって定年後も働ける等、年齢の制限もない。職員第一主義の社訓を心がけ、個々の能力が発揮され、生き生きとして働けるよう努めている。	法人としての採用となり、年齢や性別による排除は行っていない。定年後の継続雇用やレベルアップや活性化につなげる勤務地の選択等、柔軟な対応も可能である。有資格のみで評価をするのではなく、職員個々の姿勢や努力、モチベーション等も重視しながら、職場環境・条件の整備に努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	社内の研修や学習会の場で職員教育を行っており、人権教育、啓発活動も積極的に取り組んでいる。	法人として、人権に関する研修等が実施されているが、事業所においては、職員の共有認識を図る取り組みは、接遇面の研修を中心としている。	外部の研修参加も含め、権利擁護や尊厳、高齢者虐待防止、職員のストレスケア等、様々な視点から、ケアの振り返りや共有認識を図るための取り組みが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修のほか、職員の能力、知識の向上のため法人外研修への参加も勧めている。学んだ知識を業務に活かせるよう会社一体となり取り組んでいる。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内研修等学びの場で他事業所の職員と情報交換をや交流を持つことで、職員の業務に対する意識も向上している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス計画書の作成にあたり、御本人様の意向を伺い、要望等耳を傾けている。言葉のみではなく、表情も伺い、不安な気持ちがないよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス計画書作成にあたり、ご家族様にも意向を伺い、不安の軽減や安心して頂けるケアが提供できるよう努めている。面会時やご家族への手紙を月に1度お送りする等、コミュニケーションが計りやすい環境を作っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス計画書作成にあたり、ご本人、ご家族の意向をきちんと伺い、他のサービス等利用されていた方であれば、情報を提供して頂くよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症の方としての捉え方ではなく、1人の人として、人生の先輩として考え暮らしを共にさせて頂いている。食事の準備、片付け等共に行い、一緒に笑い悲しみ、心を共感している。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にしかできないケアというものがあるため、ご家族には日頃より面会に足を運んで頂けるよう声を掛けさせて頂いている。イベントを行う際はご家族にも参加を呼びかけ参加して頂き、よい関係が保てるよう努めている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時は馴染みの場所や思い出の場所に足を運ぶよう心がけている。馴染みの場所が遠く、足を運べない方もいらっしゃるため、その際は外の風景を見て思い出話を伺うようにしている。	近隣からの入居も多く、知人や友人が訪問されることもある。また、法人として家族との1泊旅行を計画する等、家族との関係性を大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士良い関係が保てるよう職員が間に入り対応している。レクリエーション等、共同作業を行うことで入居者様間関係作りに努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もいつでもご相談にのらせて頂くことを伝え対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の思いが何なのか考え、状態に応じたケアが提供できるよう話し合いの場を設けている。	センター方式を活用したアセスメント実施や、日常の中で入居者の発言や行動を細やかに記録し、職員間で共有している。家族からも情報を収集しながら、思いや意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様の生活歴を知る事で、コミュニケーションが円滑に図れるよう努めている。これまでのサービス利用時の経過も情報収集し、よいケアが提供できるよう取り組んでいる。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとり落ち着く場所、落ち着く時間があり、その方に合わせた暮らしができるよう心がけている。また、有する力を発揮して頂き、出来る自信に結び付くよう努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族のみではなく、関係する医療機関等からも情報を得、意見交換している。より良いケアが提供できるようサービス計画を作成している。	毎月のモニタリングや、アセスメント、介護支援計画、実施表等、多様な帳票を、計画作成者のみでなく、介護職員と役割分担しながら、現状に即した介護計画作成に努めている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録、気づき、状態変化時等、個別に記録を残し、職員全員が情報を共有できるようにしている。記録をもとに、状態に合わせたサービス計画の作成を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族同行の通院が原則であるが、ご家族も時間がとれないこともあり、施設内で通院行い、後にご報告を入れる等その時々に合わせて支援させて頂いている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭り行事に施設に来て頂いたり、工業高校の生徒さんの作成したベンチやフラワースタンド等を贈呈して頂いたり楽しみや季節感を感じて頂ける暮らしの提供に努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週9名の入居者様の往診に来て頂いている。往診時は職員が付き添い情報提供を行うほか、状態変化時は夜間にも電話で相談、指示を仰ぐ等行っており、安心した医療が提供できる体制をとっている。	入居時に、かかりつけ医について確認している。現在、主に協力医による訪問診療にて対応しているが、希望や必要に応じて、家族との連携を図りながら、かかりつけ医や専門医への受診を支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内に看護師を常駐させていない為、入居者様の状態相談等はかかりつけ医に相談、指示を仰いでいる。適切な医療が提供できるよう状態の把握に努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはこれまでの既往歴等情報を提供し、定期的に病院へ連絡や伺うようにし、状態の把握、退院の相談を行っている。退院前にはカンファレンスに参加し、退院後の注意点の把握を行うと共に、今後も良い関係が保てるようアプローチを行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に事業所内でできるケアの説明をご家族に説明させて頂き、かかりつけ医と24時間連携をとり、事業所、医療機関一体となって支援させて頂いている。	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について、法人内の連携を含む事業所としての方針を説明している。これまでは、外部講師を招き、終末期支援に関する研修を実施した実績もあり、看取りへの対応についても、体制の整備に向けて取り組む準備を行っている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の消防訓練時、心肺蘇生用の人形を用いた一時救命処置や、AEDの使用方法等学び、実践に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を実施しており、火災発生時の非難経路の確認、初期消火活動の訓練を受けている。近隣との関係が薄いため、協力体制が築けていないことが課題である。	夜間を想定した訓練を実施し、避難経路の確認や、消火訓練を行っている。	災害時の地域との連携を課題としてとらえている。建物の構造や周辺環境を踏まえ、近隣の協力者や連絡体制、避難時の見守り等について、運営推進会議等を活用しながら、重点的に取り組んでいく意向である。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの想いや人格を尊重し、その方に合った声掛けや対応を行っている。日々精神状態や体調の変化も見られているため、細心の注意をはらい声掛けを行っている。	さまざまな資料を活用し、接遇研修を実施している。排泄ケアや入浴時の対応については、プライバシーの確保に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分の想いを口に出せない方や、頭では言いたいことを理解しているにも関わらず言葉では言い表せない方もいらっしゃる。「はい」、「いいえ」で答えられる言葉掛けの工夫を行い、自己決定できるように働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の落ち着いた時間、場所を大切に支援している。必要なケアの提供に拒否が見られる際は、声掛けの工夫、時間を置いて再度声を掛ける等、職員本位にならないよう気をつけている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着て頂く服の選択や、訪問理美容での髪型の注文等おしゃれができるよう支援している。また、レクリエーションの一環として、女性入居者様へマニキュアを施し、おしゃれで喜んで頂ける取り組みを行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は季節感を感じて頂けるものを提供している。食事の盛り付けのお手伝いや、食器洗い等職員と一緒に行って頂き、生活リハビリの一環としている。	普段は、調理担当職員が配置され、形態等に配慮しながら、調理準備や後片付け等を共に行っている。担当者の配置がない日には、レクリエーションの一環として、入居者の方々と共に調理を行うこともある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理は専門の調理師さんが行っており、カロリーや栄養バランスを考慮した食事を提供している。食事の摂取状況やムセ等観察し、その方に合った食事の提供を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っており、嗽が困難な方にはガーゼできれいに拭き取る等支援している。また、定期的に歯科往診に来て頂いており、口腔内の状態等診て頂き、助言を頂いている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安易にオムツを使用するのではなく、定期的にトイレ誘導を行い、トイレでの排泄支援を心がけ取り組んでいる。	排泄・水分チェック表を活用し、個別の状況確認やパターンの把握に努めている。日中はリハビリパンツで対応し、車椅子を利用している方も機能訓練の一環として、トイレ誘導を行っている。夜間は個別の状況を検討し支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	社内の研修で便秘についての学習を行っており、事業所内でも適度な運動を行い便秘予防を行っている。便秘の方もいらっしゃるが、かかりつけ医に相談し、個人に合わせた下剤の調整を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴ができていない月もあったが、現在は週3回の入浴を実施している。入居者様の希望する時間や曜日に入浴はできていないが、ゆっくり時間をとり、湯船に使うよう支援している。	入浴は、週に2~3回を基本として支援し、シャワー対応ではなく、ゆっくりと湯船につかれるよう支援を行っている。レクリエーションの一環として、「ゆず湯」の提供など、楽しんでいただける工夫をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節や入居者様の希望に合わせ、衣類や室温調整を行っている。日中はできるだけ起きて頂き、夜ゆっくり休んで頂けるよう支援させて頂いているが、体調や状況に応じて休息もとるように心がけている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師さんが薬を持って来られた際、目的、作用を伺い、全職員理解できるよう申し送りを行っている。内服は職員が管理しており、症状等変化があればかかりつけ医に報告、指示を仰ぐよう努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様にタオルたたみや食器洗いを手伝って頂き、役割を持って頂くことで出来る自信に結びつくよう支援している。買物レクやドライブ等、施設内から出て気分転換が図れるよう努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブに行ける日に参加集い、希望に沿ったドライブの実施を行っている。また、社内行事として、普段行かれない温泉旅行も、入居者様はもちろん、ご家族様も含めた1泊旅行を実施している。	希望や状況、天候等に応じて、近隣のスーパーや公園への買い物や外出、ドライブ等を実施している。法人として、毎年1泊旅行を計画し、希望者は家族と共に温泉に出かけている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事業所内で行っている。お預かり金の中から、ご本人の希望する物を購入できるよう買物ドライブ等行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやりとりは行っていないが、毎月事業所よりご家族様へ写真同封のお手紙を出させて頂いている。ご家族様が入居者様の生活状況が把握でき、安心して頂けるよう支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎食後の口腔ケア終了後、洗面台の掃除、トイレ使用後の掃除の徹底を行い清潔に努めている。季節感のある空間作りに力を入れ、少しでも季節を理解し、味わって頂けるよう支援していく必要がある。	3フロアで2ユニットの造りとなっており、リビングは生活感がある。調理の様子も伝わり、五感刺激や食欲増進にもつながっている。外出時の写真や季節感に配慮された飾り付けがなされ、個人の居場所への配慮等、居心地良く過ごせるよう配慮されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の所在がわかるよう、共用空間の中に1人になれる場所はないが、ソファに腰掛け気の合う入居者様同士会話をされる等、思い思いに過ごされている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた馴染みのある家具等持ち込んで頂き、過ごしやすい居室の提供を行っている。	ベッドは用意されているが、その他の物については、意向や必要に応じて、多様な品々が持ち込まれている。絨毯敷きや、リスク軽減にも配慮された畳敷きに布団での就寝、お位牌が置かれる等、個人としての居室作りが行われている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行状態が不安定な方にはトイレに近いお部屋にする等、安全やできることへの配慮を行っている。必要時に必要な介助を行い、安全な生活が提供できるよう支援している。		